

1 題材 おうえん歌をつくろう

2 題材の目標

- 言葉のリズムやその組み合わせに興味・関心をもち、友達とリズムアンサンブルをつくる活動に進んで取り組む。
(音楽への関心・意欲・態度)
- リズムを拡大したり縮小したりして組み合わせ、反復や変化などを生かして、どのような音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
(音楽表現の創意工夫)
- リズムの組み合わせや音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくる。
(音楽表現の技能)

3 題材について

(1) 教材観

低学年からリズム中心の簡単な音楽づくりを経験しており、本題材では、リズムを拡大させたり縮小させたりして組み合わせ、音楽の仕組みを生かしながらリズムアンサンブルをつくる。さらに今後、中期・後期ブロックでの、曲のまとまりを意識した活動へとつなげていくこととなる。本教材は、スポーツ観戦などで普段耳にしている応援歌やチャントの中から、それらに使われている技(音楽の仕組み)に気付かせ、自分たちなりの思いや意図をもって音楽をつくる過程で論理的に考えながらつくることができる教材である。

(2) 児童の実態(指導の経緯)

分析内容	問 題	回 答 内 容
関心・意欲	○応援のための歌や掛け声を知っていますか。 ○どのようなことで知っていますか。 ○応援のための歌や掛け声にはどのような技があるでしょう。	知っている (33) 分からない (1) 運動会や体育祭で団の応援 (33) スポーツの選手の名前を言う(歌う) (10) 何度も言う(繰り返す) (28) 手拍子を入れる (15) リズムをよくする (6) 4拍子にする (4)
音楽表現の技能	○今までにどのような音楽をつくってきましたか。	音を選んで旋律の一部をつくる (24) 楽器で気に入った音やリズムをつくりつなげる (17)

児童たちは、運動会や体育祭、スポーツ観戦などで、応援のための歌や掛け声を聞いたり表現したりしており、経験や親しみがある。そして、それらの主な共通点についても、理解している。これまでに経験した音楽づくりについても、多くの児童が楽しい活動経験があるようである。しかし、曲を最初から最後までつくった経験や、モチーフから発展させてつくった経験はない。

(3) 指導観

まず、自分たちが体験した応援歌の分析から始め、それらにある仕組みを「技」として、児童に気付かせていく。素材となる言葉や音はシンプルであるため、見つけた仕組みを真似ながら、それらを生かしてつくるようにすれば、無理なく楽しく音楽づくりができるものを思われる。

身近な言葉や音を音楽に構成する過程において、どのようにすれば親しみやすい応援歌になるか、どのようにすれば印象の強い応援歌になるかなどを考え、試行錯誤する時間を大切にしたい。そのための思考の道具として、キャンディチャートや同心円チャートを活用し、グループで思いを共有し、工夫改善しながらつくれるようにしていく。

また、デジタル教科書等を活用し、拍の流れの中でリズムがどのように入るか、仕組みをどのように生かしていくか、組み合わせさせた様子などが視覚的に確かめられるようにする。

4 学習計画(3時間扱い)

時	主な学習活動	評価の観点			
		関	工	技	鑑
1	・いろいろな応援歌を聴き、その仕組みに気付く。応援歌のモチーフを決め、発展させて一声部の応援歌をつくる。(本時)	○		◎	
2	・音楽の仕組みを生かしながら8～12小節、二声部の音楽にまとめる。		◎	○	
3	・音楽の始まりや終わりの工夫をし完成させて、発表する。		◎	○	

5 第1時の学習

(1) 目標

○リズムの組み合わせや音楽の仕組みを生かし、モチーフから音楽へと構成する。

(2) 準備物

サッカー応援チャント映像・デジタル教科書・ワークシート・楽譜

(3) 展開

主な学習活動・予想される児童・生徒の反応	教師の手立て 指導上の留意点 ☆ 論理的思考力育成の手立て																																			
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 (一斉)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おうえん歌のわざをさぐり、 わざを使ってつくり</p> </div> <p>2 サッカー日本代表の応援歌（チャント）を視聴し、共通点を話し合う。 (個別・一斉)</p> <p>(1) 共通するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで盛り上がる。 ・ノリが良い。 ・一体感が感じられる。 <p>(2) 共通する技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4拍子や2拍子である。 ・くり返しがある。 ・声と手拍子で「問いと答え」の関係がある。 ・モチーフを拡大したり縮小したりしている。 <p>3 応援歌（チャント）をつくる。 (グループ)</p> <p>(1) モチーフの拡大や縮小の仕方を確かめる。</p> <p>(2) モチーフのくり返しの仕方を確かめる。</p> <p>(3) モチーフを決め、拡大、縮小、くり返しを使って一声部の応援歌（チャント）をつくる。</p>	<p>・リオオリンピック、パラリンピックでの各国の応援の様子を想起させ、応援歌の効果を考えさせる。</p> <p>・日本のサッカー選手へのいろいろな応援チャントを視聴させ、学習意欲を高められるようにする。 ☆印象の強い応援には共通点があることに気付かせる。その際、イメージ的な共通点と、それらを生み出す音楽の仕組みとに分けて考えられるようにする。 ☆技（音楽の仕組み）と、それらによる効果をキャンディチャートに整理できるようにする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>・デジタル教科書を使用し、モチーフの変化の仕方を視覚的に確かめられるようにする。</p> <p>・グループ全員が4拍子の流れを共有しながら創作できるよう、枠（リズム楽譜）を用意し、書き込みながら進められるようにする。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center; width: 100%;"> <tr> <td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>ル</td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>ル</td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>さ</td><td>き</td><td>ル</td><td>ル</td><td>ル</td><td>ル</td> </tr> <tr> <td>さ</td><td>-</td><td>さ</td><td>-</td><td>き</td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>○</td><td>さ</td><td>-</td><td>さ</td><td>-</td><td>き</td><td>○</td><td>ル</td><td>さ</td><td>さ</td> </tr> </table> </div>	さ	さ	き	ル	さ	さ	き	ル	さ	さ	き	さ	き	ル	ル	ル	ル	さ	-	さ	-	き	さ	さ	き	○	さ	-	さ	-	き	○	ル	さ	さ
さ	さ	き	ル	さ	さ	き	ル	さ	さ	き	さ	き	ル	ル	ル	ル																				
さ	-	さ	-	き	さ	さ	き	○	さ	-	さ	-	き	○	ル	さ	さ																			
<p style="text-align: center;">期待する児童生徒の記述・発言例</p> <p>友達の名字をモチーフとしました。初めに1拍ずつ2回入れた後、それを縮小して2回、その後で拡大して2回入れます。縮小したものと拡大したものを1パターンとしてくり返します。これにより、覚えやすくなります。最後にもう一度最初の1小節目を1回入れてインパクトを強くします。</p>	<p style="text-align: center;">評価規準</p> <p>リズムの組み合わせや音楽の仕組みを生かし、モチーフから音楽へと構成している。</p>																																			
<p>4 本時のふり返しをする。 (一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書されたチャートと自分たちのつくった作品を見ながら、技と効果が本当に結びついているかを確かめる。 ・次時は、本時の作品を発展させ二声部の応援歌に仕上げられることを予告し、意欲をもたせる。 																																			

6 第2時の学習

(1) 目標

○音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをどのようにつくるか、自分の考えや願い、意図をもつ。

(2) 準備物

デジタル教科書・ワークシート・楽譜

(3) 展開

主な学習活動	教師の手立て																																																																
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 (一斉) アレンジアイテムを使って、 おうえん歌を(メガ)進化させよう。</p> <p>2 アレンジの方法を話し合う。 (一斉・グループ) (1) モデルを見て、見通しを持つ。 (2) アンサンブルへのアレンジの方法を探る。</p> <p>【アレンジアイテム】 ①分ける ②くり返す ③変化させる ④重ねる</p> <p>3 2声部のおうえん歌をつくる。 (グループ) (1) アレンジアイテムの入れ方を話し合いながらモチーフカードを並べる。 (2) 音に出して試し、よりよい並べ方を考えながら、曲を完成させる。</p>	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 ☆論理的思考力育成の手立て ・前時に気付いた応援歌の目的や楽しさを確かめる。 ・自分たちの曲がどんどん進化できることをイメージさせ、意欲を喚起させる。 ・デジタル教科書で2声部に分けた例を示しながら、アンサンブルへのアレンジの見通しを持たせる。 ☆ビッグパッド上でモチーフカードを操作しながら、アレンジの具体的な方法とその効果に気付かせる。 <p>【モチーフカードの例】</p> <table border="1" data-bbox="742 891 1396 996"> <tr> <td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>○</td><td></td><td></td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td> </tr> <tr> <td>さ</td><td>-</td><td>さ</td><td>-</td><td>き</td><td>-</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに進化させたいグループには、「メガ進化アイテム」(⑤音程をつける ⑥加える)を提示する。 <p>【アンサンブルの例】</p> <table border="1" data-bbox="710 1142 1420 1254"> <tr> <td>🐱</td> <td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>○</td><td>○</td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td> </tr> <tr> <td>🐶</td> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>さ</td><td>さ</td><td>き</td><td>○</td><td>○</td><td>さ</td><td>-</td><td>さ</td><td>-</td><td>き</td><td>-</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・応援歌の目的や楽しさを意識してアレンジできるよう助言する。 ・グループ全員が拍の流れを共有し、音を見ながら作れるよう、枠(リズム楽譜)を用意する。 ☆前時で使用したモチーフカードを使い、それらを楽譜に並べながら試行錯誤できるようにする。 	さ	さ	き	○			さ	さ	き	さ	さ	き	さ	-	さ	-	き	-	○	○					🐱	さ	さ	き	○	○	○	○	○	さ	さ	き	さ	さ	き	○	○	さ	さ	き	🐶	○	○	○	○	さ	さ	き	○	○	さ	-	さ	-	き	-	○	○		
さ	さ	き	○			さ	さ	き	さ	さ	き																																																						
さ	-	さ	-	き	-	○	○																																																										
🐱	さ	さ	き	○	○	○	○	○	さ	さ	き	さ	さ	き	○	○	さ	さ	き																																														
🐶	○	○	○	○	さ	さ	き	○	○	さ	-	さ	-	き	-	○	○																																																
<p>期待する児童の発言例</p> <p>前回つくった1声部を2声部に分けるだけでは、元気な応援の感じがあまりしないから、分けたフレーズを繰り返したらインパクトが強くなって覚えやすくなりました。ノリをよくするためには、繰り返しは細かいリズムが合います。別々のフレーズを重ねるとおもしろい響きが生まれ、声を出していても楽しくなります。</p>	<p>評価規準</p> <p>音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをどのようにつくるか、自分の考えや願い、意図をもっている。</p>																																																																
<p>4 本時の振り返りをする。 (一斉)</p>	<p>☆前時からのプロセスを振り返らせ、どのように進化してきたかを確かめられるようにする。</p>																																																																

組 番 メンバーの名前



おうえん歌をつくろう



1 ことばを決めよう

つかうことば

--	--	--	--

拡大➡

--	--	--	--	--	--	--	--

縮小➡

--	--

2 カードにしよう

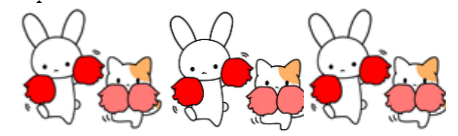
3 うたをつくろう

1					2					3					4				
5					6					7					8				

カード

おうえん歌をつくろう Part2

メンバー() () ()



4 進化させよう

1					2						3						4						
5					6					7							8						
9					10					11							12						
13					14					15							16						

メガ!

進化させよう

おうえん歌をつくろう Part2

メンバー() () ()



1	2	3	4
やまも	やまもと	やまも	やまもと
やーまー	もーとー	やーまー	もーとー

5	6	7	8
やーまー	もーとー	やまも	やまも
まも	まもと	やーまー	もーとー

9	10	11	12
GoGo	いけいけ	それそれ	やまもと
やまもと	まも	まも	まも

13	14	15	16



1 たいち	2 たいち・	3 たーいー	4 ちーーー
	たいち	たいち・	たいち

5 たいち	6 たいち	7 たーいー	8 ちーーー
	たいち	たいち	たいち

9	10 	11	12

13 たいち	14 たいち	15 	16 わきたん!
	たいち	たいち	